

2005 年 11 月 14 日

第 2 回 E F V 国際会議について（結果報告）

国際交通政策室

1. 経緯

- ・「交通に関する大臣会合」（2002 年 1 月）では、議題の一つとして環境にやさしい自動車（E F V）について議論。同会議では、E F V の開発・普及を推進するための国際的な枠組みとして、「E F V 国際会議」開催の重要性を提唱。
- ・大臣会合の成果を受けて、2003 年 1 月、国土交通省は「E F V 国際会議」を東京で開催。同会議では E F V の概念、E F V の開発・普及等について議論し、E F V に関して国際的な情報交換を継続することの重要性について合意。
- ・今般、第 2 回会議が我が国の働きかけにより 2005 年 11 月、バーミンガムにおいて英国政府主催により開催された。

2. 開催日、議題等

開催日：2005 年 11 月 10 日（木）及び 11 日（金）

場所：英国バーミンガム

主催：英運輸省

参加者：英、米、仏、豪、加、日、独、印、メキシコ、中国、国連、等の政府及び研究機関、自動車製造業者等。総勢約 200 名。

当省からは、久米自動車交通局技術安全部長、野田（独）交通安全環境研究所理事、山崎自動車交通局技術企画課対策官、松尾総合政策局国際交通政策室補佐が出席。

議題：

- ・科学・技術の発展について
- ・E F V 普及策について
- ・途上国対策について

3. 会議概要

- ・英環境大臣及び運輸大臣より本年 7 月の G 8 サミットで合意された気候変動に関する取組の一つとして E F V 開発・普及が重要であること等が議論されたことを受けて本会議を英国で開催するに至った経緯が説明されるとともに、第 1 回 EFV 国際会議を立ち上げ、EFV 開発・普及でイニシアチブをとる日本に対して敬意が示された。
- ・当省からは久米自動車交通局技術安全部長が 2002 年 1 月の「交通に関する大臣会合」の合意事項に基づき我が国がこれまで推進してきた EFV 開発・普及施策として、グリーン税制、トップランナー方式による燃費規制、世界で最も厳しい排出ガス規制、技術開発等について発表を行い、各国から強い関心が示された。また、野田（独）自動車交通安全環境研究所理事が次世代低公害車の開発・普及に関する発表を行った。
- ・各国政府、研究機関、自動車メーカーより、自動車を取り巻く環境の変化、技術開発状況、ユーザーの意識の変化等について発表があった。
- ・各国より、EFV 普及にはモータリゼーションの進展が著しい途上国も含めた多くの関係者の協調した取組が必要であるとの発言があった。また、EFV 会議の意義が指摘されるとともに取組の継続が重要であるとの意見が多く出された。
- ・独運輸次官より第 3 回会議を 2007 年に同国において開催することが表明された。